

ambition

アンビション # 1800

工事説明書

工事される方へのお願い

- 工事の前に、この「工事説明書」をよくお読みのうえ正しく工事を行ってください。この「工事説明書」は、工事終了後に必ずお客様へお渡しください。
- 工事説明書に記載された方法以外の工事・分解等を行われた場合に伴う、ストーブおよび建築の不具合・破損については保証を致しかねますのでご注意ください。
- 施工上の責任は当社では負いかねますので、万一施工上に起因する不具合が生じた場合は、貴店の保証規定によって修理いただくようお願いいたします。
- 建築物への開口作業や支持金具を固定する下地等に関しては建築業者とよくお打合せの上、行ってください。
- 工事に従事する方は、労働安全衛生規則にしたがってください。設置場所の状況や機器（重さや形状）、煙突設置の高所作業時等で、けがをされないように十分注意してください。
- 据え付け完了後、P17 チェックリストに基づいて再確認を行ってください。
- 後の保守点検に必要な情報として設置図面や使用した部材の情報は設置記録として保管してください。



目次

1. 安全のために必ずお守りください	2
2. 開梱	
開梱の際の注意	8
付属品の確認	8
3. ストーブの設置	
作業するにあたり	9
施工上の注意事項	9
給気用ダクトの取付け方法	13
ストーブにスターターを固定する	14
4. 煙突の設置	16
5. チェックリスト	17
6. 本体寸法図	18

1 安全のために必ずお守りください ⚙️

表示について

 危険	作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の製品の不具合によって使用者が、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。
 警告	作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の製品の不具合によって使用者が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 一般的な禁止	この表示は、「禁止」されている内容です。
 一般的な指示	この表示は、必ずしていただく「指示」内容です。

危険



禁止

お客様による据え付け移設工事の厳禁

据え付けや移設工事は販売店、または専門業者に依頼し、お客様ご自身では行わないでください。
設置については本書の内容の他、火災予防条例、建築基準法などの法令の基準があります。
これらに従わない場合、火災など、危険な状況を引き起こす場合があります。



禁止

屋内排気禁止

屋内に排気すると煙が屋内に充満して危険です。必ず屋外に排気してください。

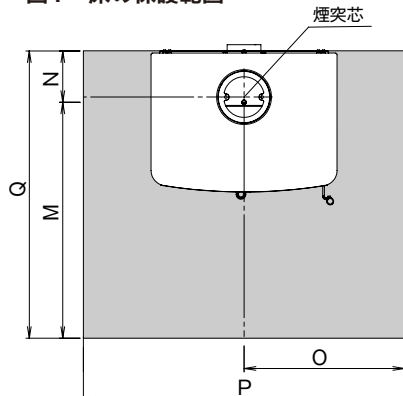


指示

設置の床を必ず保護する（炉台）

ストーブを設置する床は、ストーブの重量に長期間耐えられる水平かつ、安定している場所を選択した上で、
図1の範囲を不燃材料で有効に保護してください。
床の保護には不燃材料（金属を含む）で施工してください。
レンガやタイルを用いる場合は隙間が生じないように目地をモルタルでつめてください。
床の保護を怠ると、燃えた灰の落下や輻射熱で火災の原因になります。

図1 床の保護範囲



(単位:mm)

前方 M	後方 N	側方 O	幅 P	奥行き Q
730 以上	138 以上	475 以上	950 以上	868 以上



禁止

次の場所には据え付けない

※火災や予想しない事故の原因になります。

- ・ 水平でない場所、不安定な場所
- ・ ストープの上に物が落下する場所
- ・ 可燃性ガスや液体を保管、または溜まる場所
- ・ 乾燥室、温室、飼育室など、人がいない場所
- ・ 避難口など、避難の支障となる場所
- ・ 付近に燃えやすい物がある場所
- ・ ほこりや湿気の多い場所
- ・ 化学薬品を使用する場所
- ・ 燃焼に必要な空気を取り入れる空気取入れ口のない場所。または換気の行えない場所



指示

ストーブの燃焼に必要な空気量を確保する

- ・ ストープを設置する部屋の壁等、ストーブの燃焼に必要な空気量を不自由なく取込めるように屋外へ直接通じる給気口を設けてください。
- ・ 屋外側の給気口の端部はゴミや雪などでストーブの燃焼が妨げられない場所に設けてください。
- ・ ストープを据え付ける部屋の気密が高い場合で、部屋の換気設備やストーブの他に空気を必要とする機器により、ストーブが燃焼に必要な空気量を十分に取込めないと、不完全燃焼がおこる他、一酸化炭素を含んだ煙が部屋に漏れて、生命に危険をおよぼすおそれがあります。



禁止

換気を行えない場所には設置しない

換気を行えない場所に設置するのはおやめください。屋内に煙が溜まり危険です。



禁止

家具、カーテン、寝具、薪など可燃物近接禁止

家具、カーテン、寝具、薪など、燃えやすいものをストーブや煙突に近づけないでください。ストーブの熱気で発火して火災の原因になります。

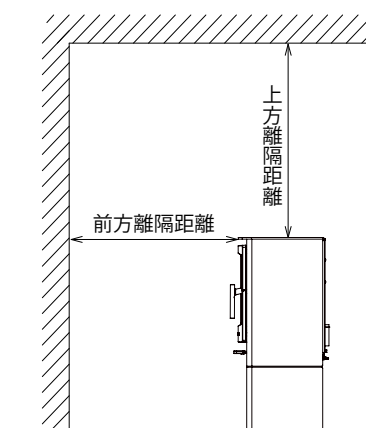


指示

可燃物との距離を離す

ストーブ、および煙突から周囲の壁・天井・柱などの可燃物までは、火災予防上の安全な離隔距離を設けてください。火災の原因になります。

図2 ストープ前方・上方から可燃物までの離隔距離



前方離隔距離 (単位:mm)

メーカー指示	告示第 225 号
1100	1424

上方離隔距離 (単位:mm)

メーカー指示	告示第 225 号
1000	1030

* 可燃物：家具、カーテン、寝具、薪などを含む
(ただし、本製品のログストア内の薪は除く)



警告



指示

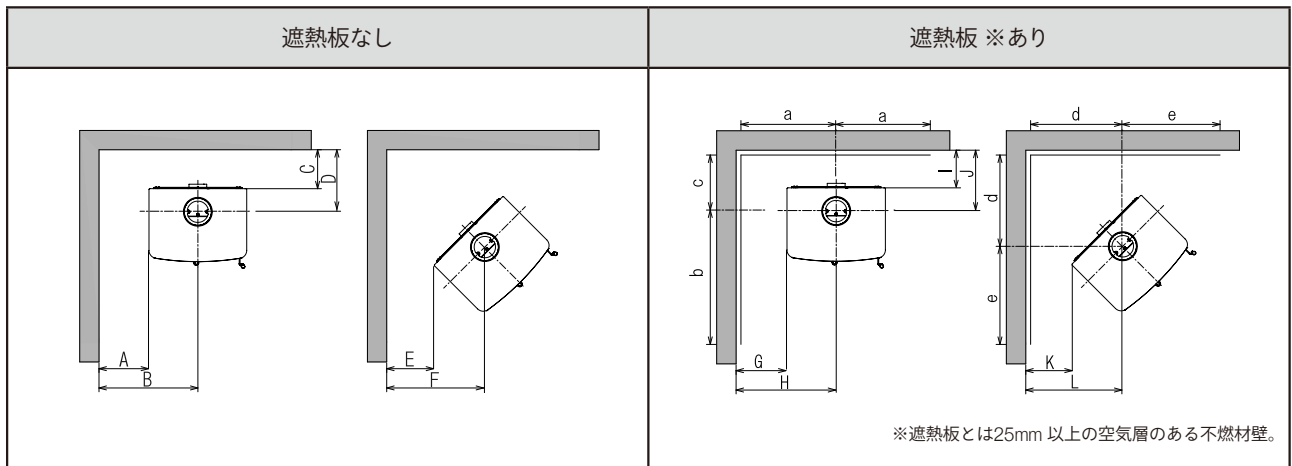
ストーブから周囲の可燃物まで安全な距離を離す

ストーブから周囲の壁、天井、柱など可燃物までは、ストーブを設置する部屋などの仕上げと遮熱板による可燃物の保護に応じて、安全な離隔距離を確保してください。火災の原因になります。

内装制限の技術的基準に従う場合

ストーブを設置する火気使用室の仕上げは建築基準法に定められた内装制限の技術的基準に従い、壁、および天井(天井のない場合においては屋根)の室内に面する部分を、準不燃材料で仕上げてください。その上で、25mmのスペースによる空気の対流層がある不燃材料で作られた遮熱板の有無により、それぞれの離隔距離を確保してください。

ストーブ側面・背面から可燃物までの離隔距離



(単位:mm)

遮熱板なし					
離隔距離					
A	B	C	D	E	F
400	675	225	363	225	510

遮熱板※あり					
離隔距離					
G	H	I	J	K	L
150	425	150	288	150	435
遮熱板の幅					
a	b	c	d	e	
400	705	263	410	486	
遮熱板の高さ					
a	b	c	d	e	
1013 (下部空気層 25 含む)					

警告



ストーブから周囲の可燃物まで安全な距離を離す

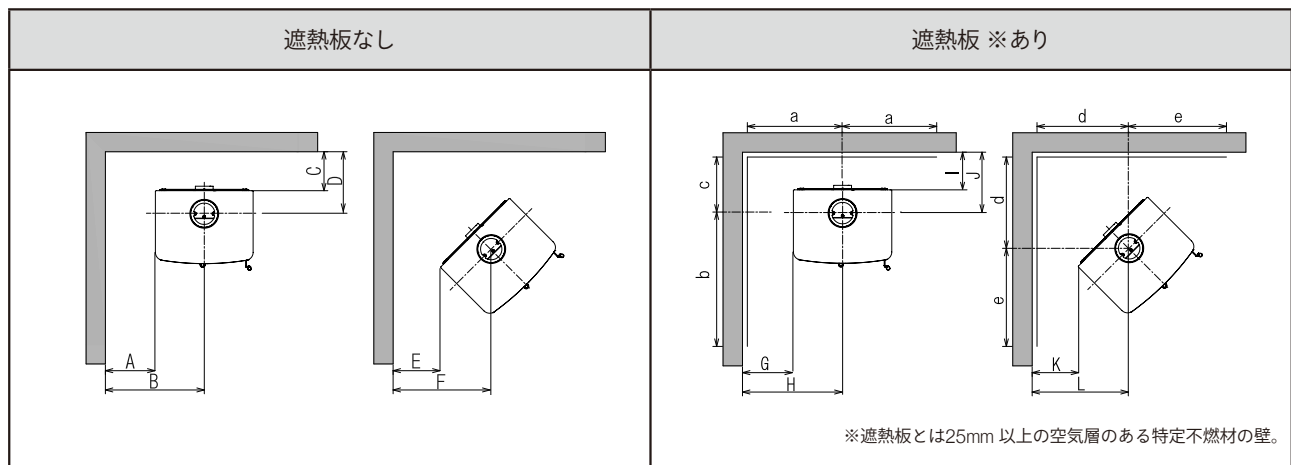
指示

ストーブから周囲の壁、天井、柱など可燃物までは、ストーブを設置する部屋などの仕上げと遮熱板による可燃物の保護に応じて、安全な離隔距離を確保してください。火災の原因になります。

国土交通省告示第225号に従う場合(内装制限の緩和措置)

内装制限の準不燃材料による仕上げに準ずる仕上げとして、ストーブによる熱の影響範囲(可燃物燃焼部分)に内装の仕上げ、および下地がかからないように離隔距離を確保してください。もしくはかかる範囲の内装仕上げ、および下地を、25mmのスペースによる空気の対流層がある、特定不燃材料で作られた遮熱板で保護し、必要な離隔距離を確保してください。告示第225号に従えば、熱の影響範囲にかからない部分の内装仕上げに木材を使うことができます。

ストーブ側面・背面から可燃物までの離隔距離



(単位:mm)

遮熱板なし					
離隔距離					
A	B	C	D	E	F
983	1258	943	1081	983	1268

遮熱板※あり					
離隔距離					
G	H	I	J	K	L
328	603	315	453	328	613
遮熱板の幅					
※ a	b	c	d	e	
1135	1567	428	588	1137	
遮熱板の高さ					
a	b	c	d	e	
1580					

※ a は側方に遮熱壁がある場合には $H - 25\text{mm}$

安全のために

！ 煙突から周囲の可燃物まで安全な距離を離す

指示

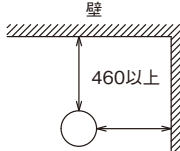
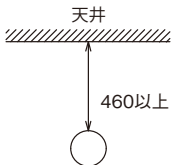
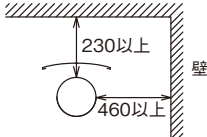
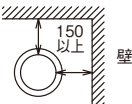
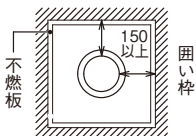
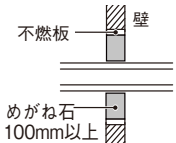
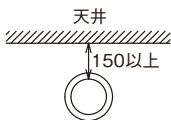
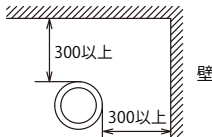
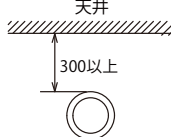
煙突から可燃物の間は図3に定められた火災予防上安全な離隔距離を設けてください。

特に貫通部は建築基準法に規定されていますので、図4 貫通部の詳細図のように囲い枠を設け、枠内は金属以外の不燃材料で防火上有効な処理をしてください。

離隔距離が不足すると火災の原因になります。

図3 煙突から可燃物までの離隔距離

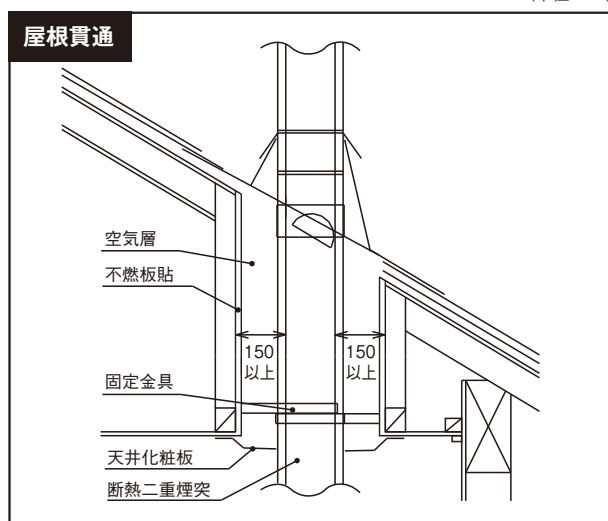
(単位:mm)

	開放空間	小屋裏・天井裏・床裏などの貫通	壁を貫通	天井
シングル煙突	 ※壁に25mmの空気層を設けた遮熱板を使用した場合、230mmまで離隔距離を削減することができます。	 使用禁止	 使用禁止	
煙突ヒートシールド + シングル煙突		 使用禁止	 使用禁止	 使用禁止
断熱二重煙突				
断熱二重煙突 (自在管)		 使用禁止	 使用禁止	

※ シングル煙突にはスターターも含まれます。
 ※ 貫通部は断熱二重煙突を使用してください。

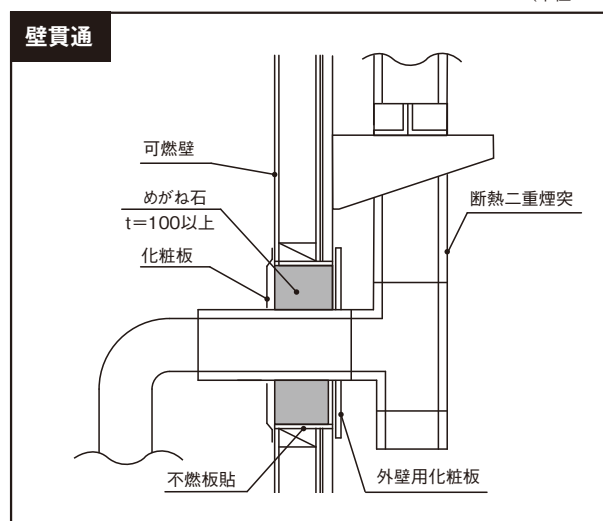
図4 煙突貫通部詳細図

(単位:mm)



※ 煙突が小屋裏、天井裏、および床裏などを貫通する部分は、断熱二重煙突の内側煙突より150mm以上の離隔を設け、防火上有効に被覆を行った囲い枠内を貫通させてください。

(単位:mm)



※ 煙突が可燃性の壁などを貫通する部分は必ずめがね石を使用し、めがね石の中に煙突の接続部を設置しないようにしてください。



屋根から煙突の高さを設ける

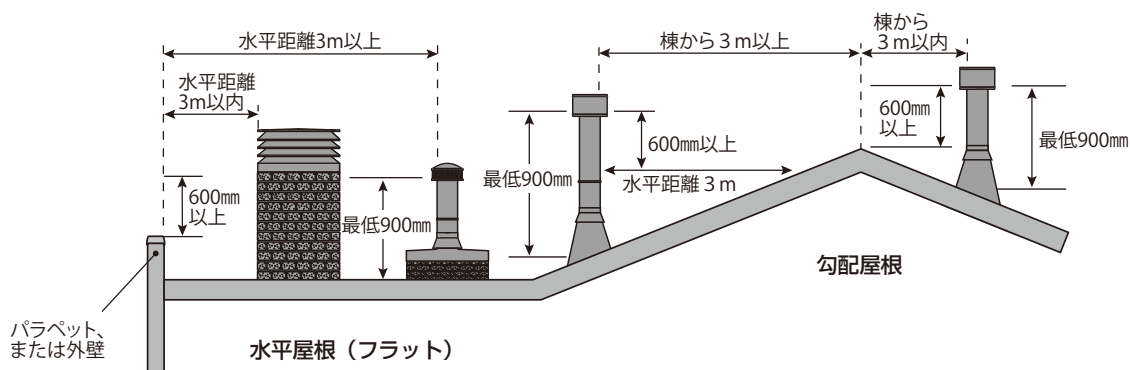
指示

煙突頂部の推奨

風向と屋根の形状から発生する風圧帯により、煙突頂部から逆流をおよぼす影響の防止策、また煙突火災時の燃焼防止として、弊社では米国防火協会（NFPA211）の基準を推奨します。

煙突頂部の推奨距離

煙突の高さは、屋根面から立ち上がる長さを90cm以上とし、その先端からの水平距離3m以内に建築物や障害物がある場合は、その建築物や障害物から60cm以上高くしてください。



建築基準法

- ・煙突の屋根上突出部は、屋根面からの垂直距離を60cm以上とすること。
- ・煙突の高さは、その先端からの水平距離1m以内に建築物がある場合で、その建築物に軒がある場合においては、その建築物の軒から60cm以上高くすること。



煙突を確実に接続

指示

煙突は容易に外れないよう強固に接続し、かつ排気漏れがないよう接続してください。

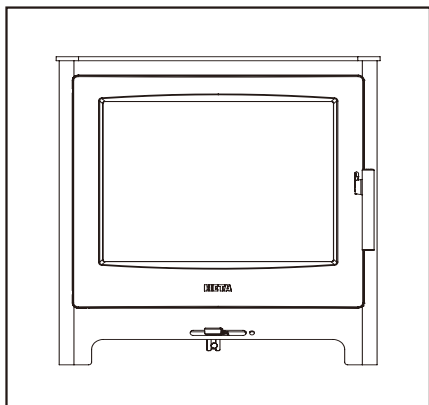
煙が屋内に漏れると健康に害をおよぼす他、火災の原因になります。

2 開梱

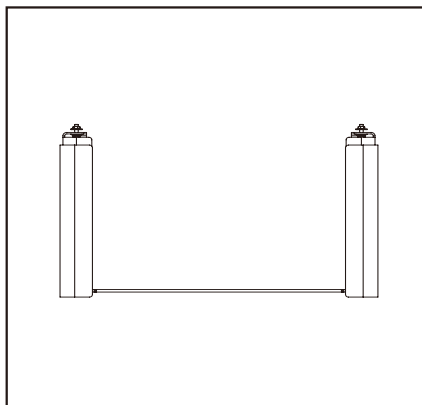
開梱の際の注意

お使いになる前に、製品の輸送中に生じたネジのゆるみや、外れなどが無いかを調べてください。
梱包材は取除いた後、適切に処分してください。

ストーブ、ログストアは、それぞれ別の個装箱に入っています。



ストーブ



ログストア

付属品の確認

付属品の内容を確認し、取付け方法に従い確実に取付けてください。

お願い 付属品に不備がありましたら、お手数ですが弊社までご連絡ください。

本体付属品

名称	数量
工事説明書(本書)	1
取扱説明書	1
保証書	1
お引渡し時確認書	1
薪ストーブを安全にご使用いただくために	1
あんしん点検のご案内、兼 所有者登録ハガキ	1
個人情報保護シール	1
パーツリスト	1
T10トルクス L型レンチ	1
グローブ(片手)	1
着火剤	1

備品一覧

名称	数量
スターター	1
スターター用 フランジボルト	2
レッグレベラー	4
ファイバーロープ 51cm(口元用)	1

オプション

名称	品番
アッシュリッパ	18501
ログストアリアプレート	18613

3 ストープの設置 ⚙️ ⚙️

作業するにあたり

- 作業は必ず2人以上で行ってください。
- 作業時はすべり止めの付いた手袋を着用してください。

施工上の注意事項

ストーブ本体、および炉台の荷重を十分受けられる床構造としてください。

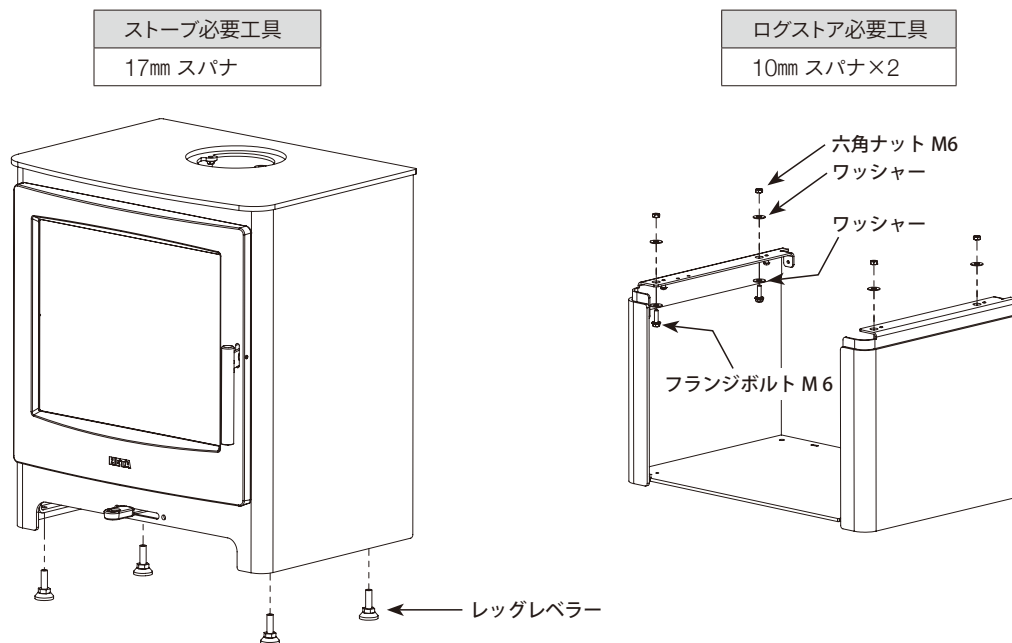
1 パネル、レッグレベラーを外す

それぞれ梱包を解いた後、ストーブ燃烧室内の各パネルとレッグレベラーを取外します。

パネルは、取扱説明書の「パネルの掃除・交換」内の「パネルの分解・組み立て手順」を参照してください。

注意 パネルはバーミキュライト製で破損しやすいため、取外しは丁寧に行ってください。

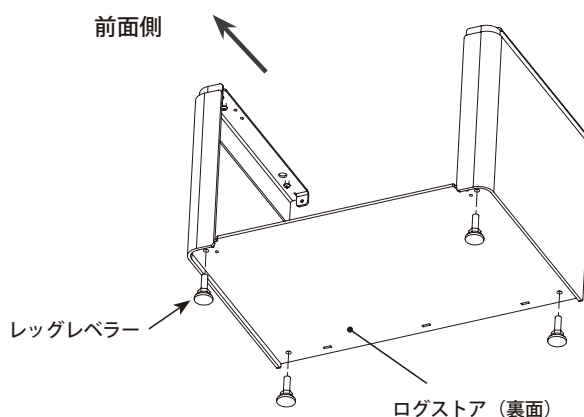
ログスタは、上部に取付けてあるフランジボルトM6、ワッシャー×2、六角ナットM6を4箇所から外します。



2 レッグレベラーを付ける

ストーブから取外した、レッグレベラーをログスタに取付けます。

必要工具
17mm スパナ、または5mm六角棒レンチ

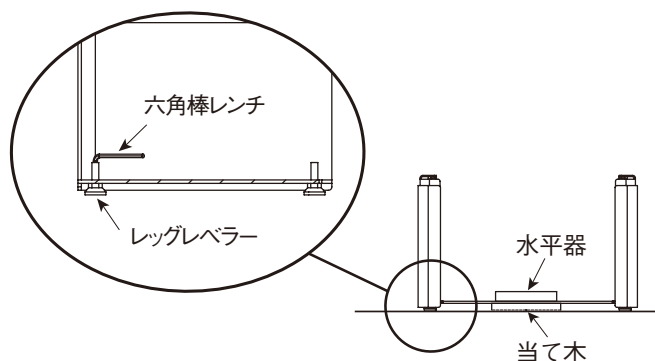


6

ログストアのレベルを調整

水平器を使用してログストアが水平になるよう、レッグレベラーで調整してください。
水平器はボトムを中心に置いて確認します。

必要工具	
・5mm六角棒レンチ	・水平器

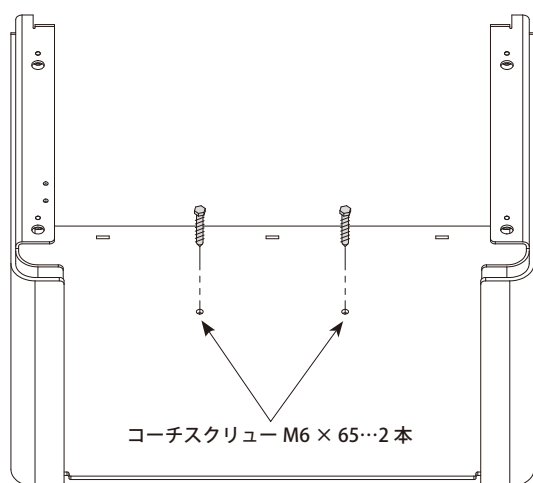


7

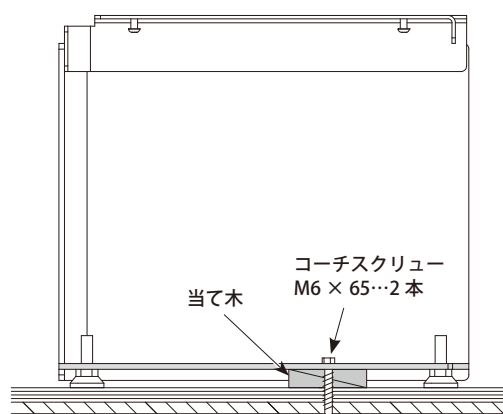
コーチスクリューを打ち込む

本体ボトムに 3 で開けた穴にコーチスクリューを打ち込みます。
コーチスクリューは下穴を開けてから施工してください。

推奨コーチスクリュー	必要工具
M6×65mm以上	10mmスパナ



前方



【詳細図】

8

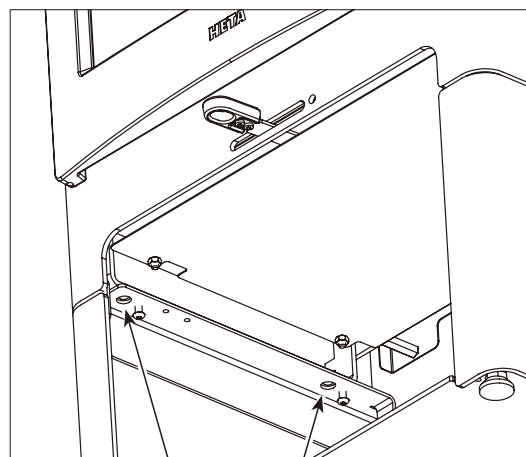
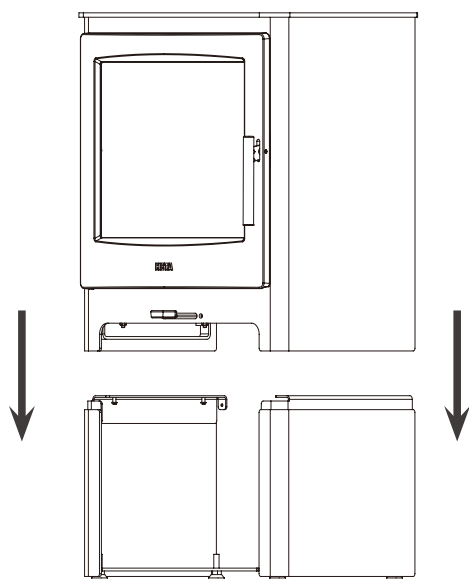
コーチスクリューを締め付ける

ログストアにガタつきのないよう、コーチスクリューをしっかりと締め込みます。

9

ログストアにストーブを載せる

ログストアにストーブを載せ、ストーブが水平になるよう調整します。

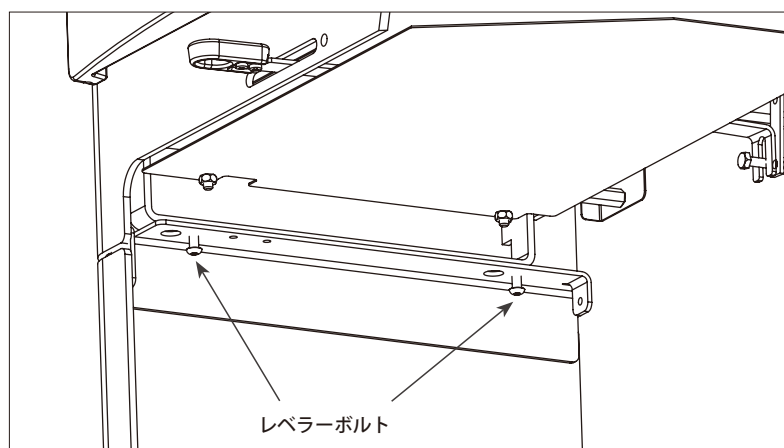


ストーブ側のφ8.5とログストアφ13の穴が合うようにストーブに載せてください。

必要工具

5mm 六角棒レンチ

ストーブの天板に水平器を置き、レベルボルトでストーブ本体が水平になるよう調整してください。



レベルボルト

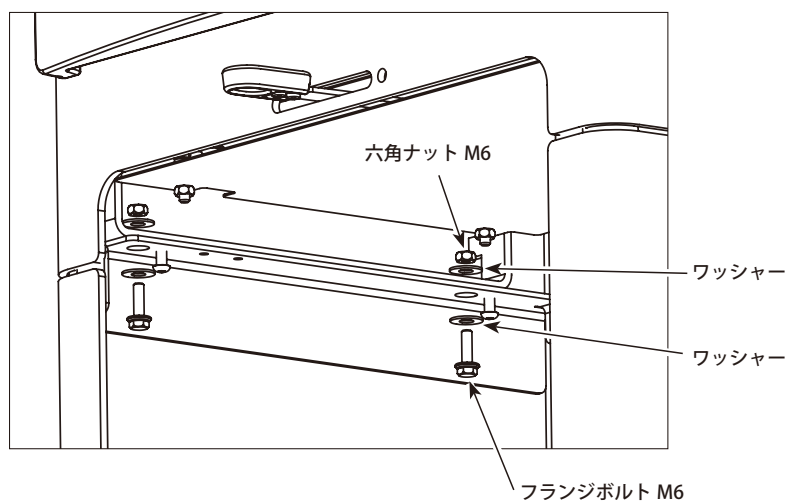
10

ボルト類を取付ける

穴を合わせ水平調整を行った後、**1**で外したフランジボルトM6、ワッシャー×2、六角ナットM6をストーブ本体とログストアが一体になるよう4箇所締め付けます。

必要工具

10mmスパナ×2



六角ナット M6

ワッシャー

ワッシャー

フランジボルト M6

給気用ダクトの取付け方法

外気を直接本体に入られる場合、給気用ダクトを以下の方法で接続してください。給気用ダクト等は付属しておりません。

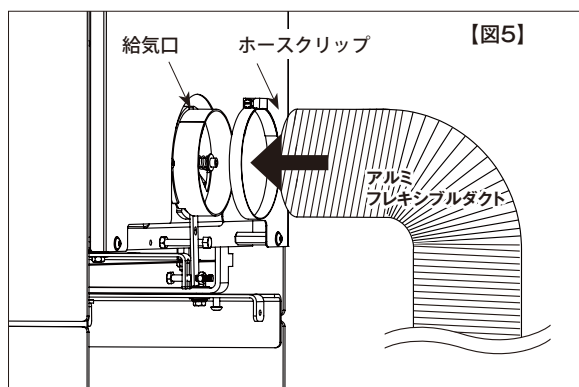
給気用ダクトを取付ける

本体背面中央にある給気口へ、内径φ100mmのアルミフレキシブルダクトを差し込み、ホースクリップで固定します【図5】。

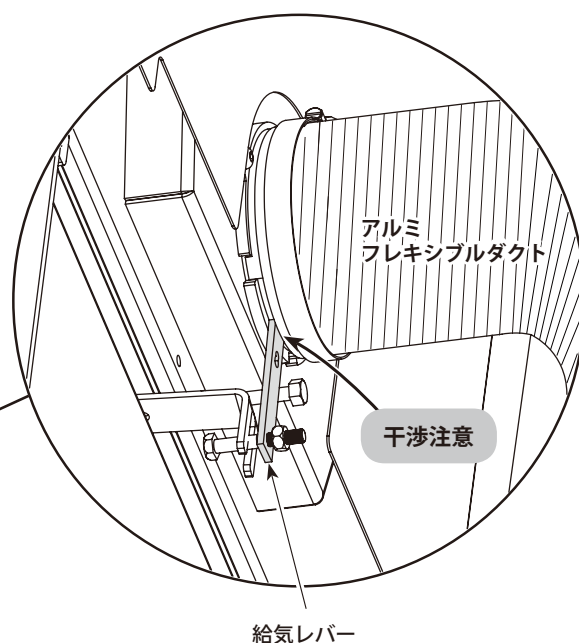
アルミフレキシブルダクトを給気口へ差し込みすぎると、給気レバーに干渉し、火力調整レバーが動かなくなります。

干渉した場合は、アルミフレダクトの干渉箇所をマイナスドライバー等を使い、図6のように端部を押しつぶして給気レバーの逃げを設けてから取付けます。

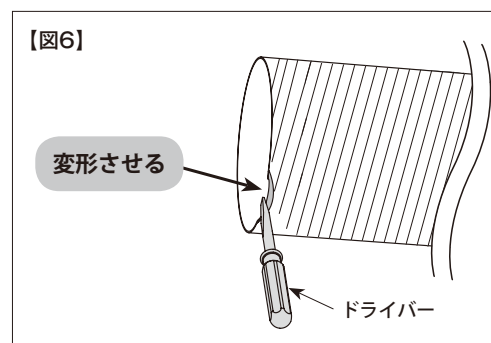
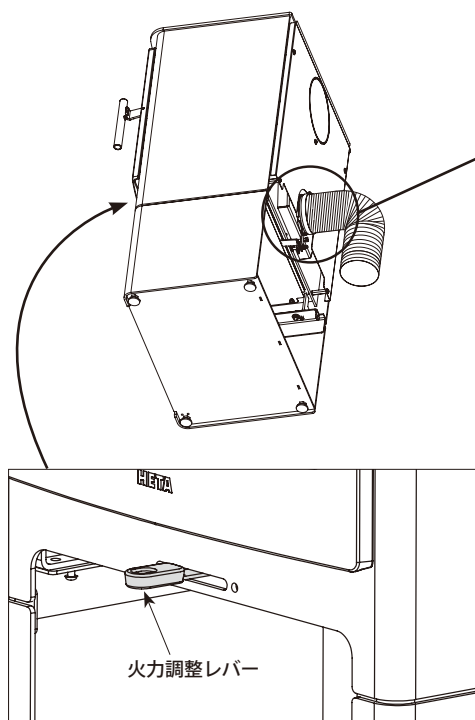
給気用ダクトの取付け後、火力調整レバーが動くことをご確認ください。



※アルミフレキシブルダクト (内径φ100mm) と
ホースクリップは別途ご購入ください。



ストーブの設置



給気用ダクトの建築側への固定

1

あらかじめ、貫通位置にφ100のアルミフレキシブルダクトが通るφ110程度の開口を開け、ストーブ所定の位置に設置します。

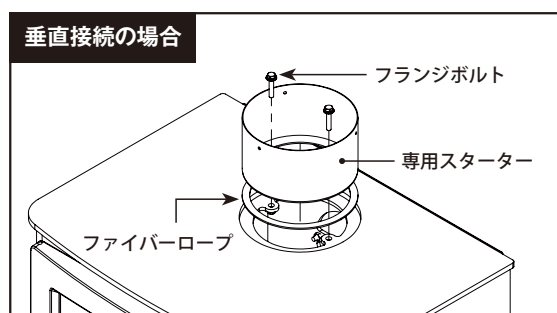
2

建築側に設けた給気口にアルミフレダクトを接続します。

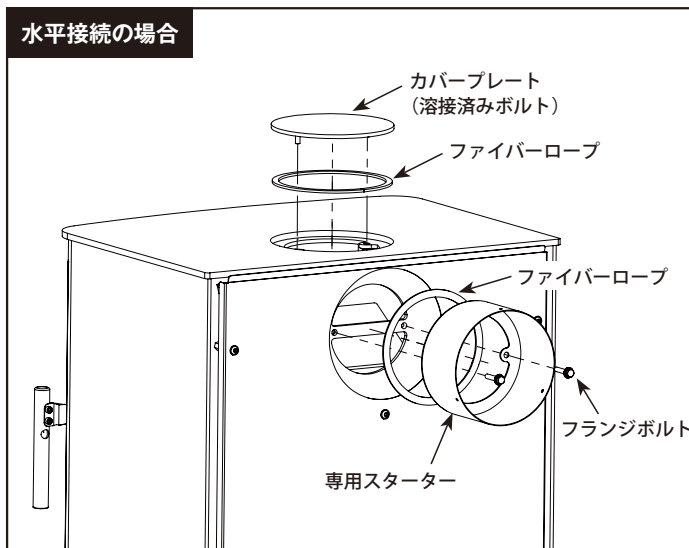
ストーブにスターターを固定する

煙突に接続するために、付属のスターターをイラストのように取付けます。
排気漏れがないよう、隙間なく取付けてください。

必要工具
10mmスパナ×2



専用スターターはストーブ本体にM6フランジボルトを使い、ストーブ内部からM6ナットで固定します。



- ・リアヒートシールド上部のノックアウト穴を開いたのち接続します。
- ・トップを塞ぐカバープレートは、背面に接続していたものをそのまま使用します。

カバープレートをトップに固定する際は、ストーブ背面の煙突口からM6ナットで固定します。

専用スターターはストーブ本体にM6フランジボルトを使い、ストーブ内部からM6ナットで固定します。

[illegible]

4 煙突の設置

煙突の仕様

● シングル煙突

材質は厚み0.6mm以上のステンレス製、もしくは鉄製で、継目は溶接、またはハゼ組みのものを使用してください。

シングル煙突の長さの目安

室内に使用するシングル煙突の長さは、建物の断熱性能を考慮した上で、本体より最長2.4mまでを目安としてください。

● 断熱二重煙突

衝撃テスト認定品 (UL103 "Type HT" もしくは BS EN 1856-1 T400 以上)、もしくは同等の断熱性能を有するものであって、材質が SUS304 以上の耐酸性、耐食性のある断熱二重煙突を使用してください。

煙突の立ち上がり・曲がり・横引きの目安

- ・煙突は排気抵抗を考慮し、できるだけストレートに設置してください。
- ・立ち上がりは本体接続部から4m以上必要です。
- ・曲がりの箇所は4箇所までとし、角度の合計は270°以内を目安としてください。
- ・横引きの長さは500mm以内を目安としてください。

煙突の支持

- ・支持具を固定する際は建築物の構造、取付け面の仕上げ、煙突重量、および気象条件等の外力を考慮し、必要に応じて建築工事による下地補強を行い、確実に固定してください。
- ・システム全体で必ず1箇所以上の煙突荷重受けを断熱二重煙突部分に設置し、かつ振れ止めは3.5m以内の間隔で固定してください。
- ・支持部分から煙突頂部までの間は1.5m以内にしてください。
- ・支持具は煙突を長期間保持できるように強固に固定し、材質は腐食を考慮し SUS304、または同等の性能にしてください。

荷重受

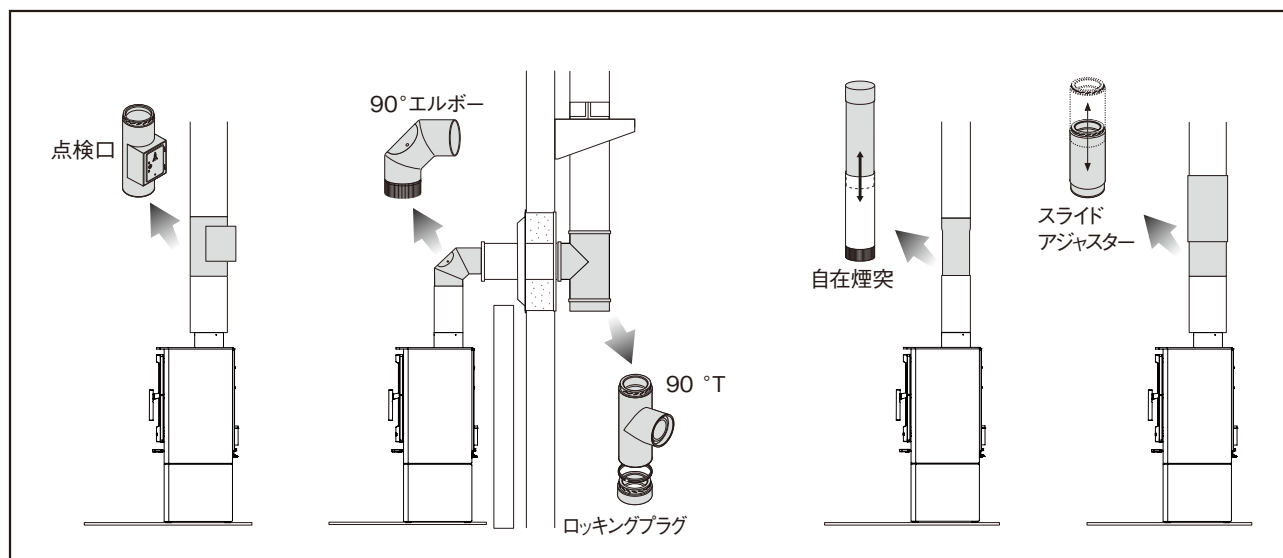
荷重受用の部材は **M 8 以上のステンレス製六角コーチスクリュー** を 4 本以上にて、建築躯体に固定してください。

振れ止め

振れ止め用の部材は、**屋外に M 8 以上、屋内については M 6 以上のステンレス製六角コーチスクリュー** を 2 本以上にて、建築躯体に固定してください。

煙突の点検口

点検口は点検、メンテナンスが行いやすく、かつ容易に近づくことができる場所に設けてください。



煙突の接続

- ・ 煙突は容易に外れないよう強固に接続し、かつ排気漏れがないように接続してください。
- ・ 他の機器が接続されている煙突には接続しないでください。

煙突の雨仕舞と雪害対策

- ・ 屋外貫通部、および煙突の曲がり部、接続箇所は雨の浸入を十分考慮し、シール材等で防水処理を行ってください。
- ・ 雨仕舞いは一次防水にとどまらず、必ず二次防水の処理を併せて行ってください。
- ・ 積雪地域では雪割りや雪止め等の金具を設け、煙突、および雨仕舞い部材の破損を防止してください。

既存の煙突

既存の煙突にストーブを接続する場合は、原則として1年以上使用した煙突、煙突トップ、固定金具は新品と交換してください。ただし煙突、煙突トップ、固定金具の材質がSUS304、または同等以上の耐酸性、耐食性を有する材質で、穴あき・サビ・亀裂・閉塞・接続部の外れなど、安全に問題がないことが確認された場合は、既存の煙突にストーブを接続することができます。

5 チェックリスト

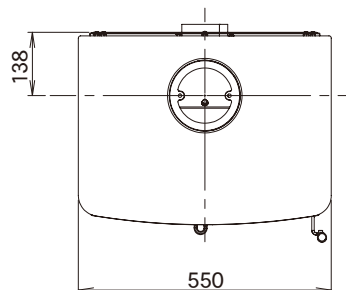
 **工事終了後、以下の項目に従い、工事内容を再確認してください。**
指示

	点検項目	点検内容	チェック
ストーブ、およびその周辺	床の保護	ストーブを設置する床の保護範囲は十分ですか。 また、防火上有効な措置がされていますか。	
	可燃物との離隔距離	ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離は十分ですか。	
	換気設備と燃焼空気	燃焼に必要な空気を取込めますか。換気は行えますか。	
	保守、管理上の空間	点検、修理に必要な空間はありますか。	
	水平・安定設置	ストーブは水平に設置され、がたつきはないですか。 地震時の転倒防止対策として、床に固定されていますか。	
	備品	備品は全て取付けされていますか。	
煙突	可燃物との離隔距離	煙突から周囲の可燃物までの離隔距離は十分ですか。	
	頂部の高さ	煙突の高さは十分ですか。	
	固定、接続	煙突は確実に接続され、堅固に固定金具で固定されていますか。	
	保守、メンテナンス	煙突の保守、メンテナンスが容易に行える設置になっていますか。	

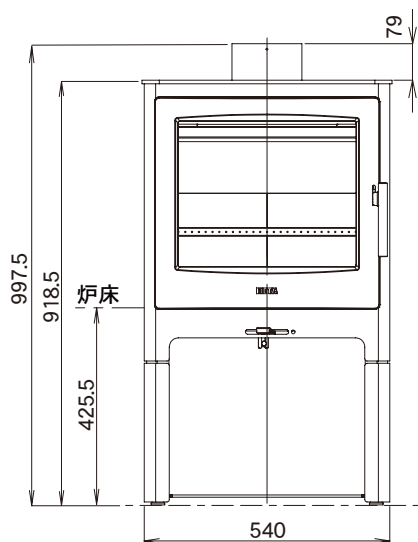
6 本体寸法図

ambition

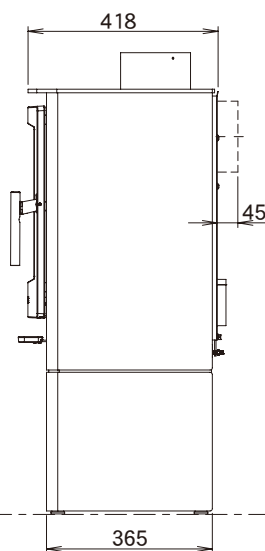
(単位:mm)



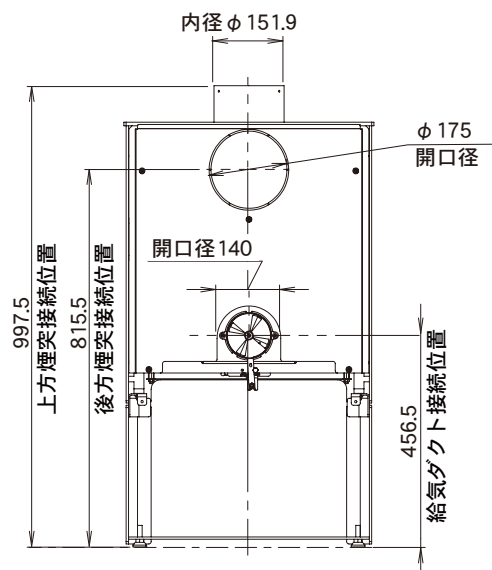
平面図



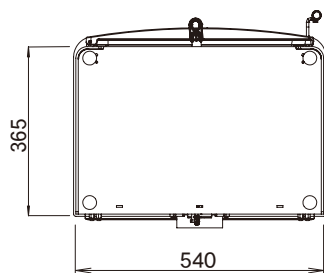
正面図



側面図



背面図



底面図



ファイヤーサイド株式会社
〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂497-871
☎0120-46-7877
<https://www.firesidestove.com>